

本書は、2013年にオックスフォード大学から出版された *Listen, Here is a Story: Ethnographic Life from Aka and Ngabba Women of the Congo Basin* の翻訳である。



ボニー・ヒューレット  
ジャングルで暮らす女の生理と心理を、女の視点から初めて描いたライフストーリー。自然の中で産む苦難と喜びが進化の不思議を語る。  
山極寿一 推薦!  
「コンゴ盆地の女性たちが語る、「女になること」の意味」

筆者のボニー・ヒューレットは、「家族と誕生のセンター」で看護師として10年働いた後、ワシントン州立大学に戻り、人類学を専攻した。特に医療人類学を専門とし、本書の舞台となっているコンゴ盆地の国々で、人間の発達とその社会・文化におけるかかわり(あるいは影響)に注目して、長年に

わたり現地調査を行ってきた。

一方、3人の訳者も人類学者であり、その一人の服部志帆さんは、カメルーンで狩猟採集民族バカの人々の森林利用などの研究に従事し、「森と人の共存」をテーマとした著書がある。単独での現地調査も行ってきた。現在、天理大学国際学部で教えている。本書を読み始めた時には、かつて、おやさと研究所の研究会で、カメルーンでの調査について発題されたことが目に浮かんだ。発題は、人類学という学問の面白さと「未知なる」ものに挑みつつも、その中に身を置くことの難しさに溢れていたように感じたことを瞬時に思い出した。

著者と訳者の関心領域が重なったことで、私たちは、この興味深い本を日本語で読むことができるようになった。「森の女」たちの語りは、非常にプライベートでありながら、実は森に生活する彼女たちの生き方が“普遍的である”と示しているようだ。舞台は、コンゴ盆地、中央アフリカ共和国ナンベレ村とその周辺である。

本書は小規模社会における女性の主観的な経験に目を向けた研究であるが、そこでは、近接しながらも異なった文化を持つ二つの集団(アカとングンドゥ)が比較されている。しかも、女たちの語りを通して考察され、世代が異なる女たちの語りによって、現在だけではなく、現在へと向かってきた伝統・文化の流れ、未来へ向かい蓄積されていく日常生活が描き出される。それは家族をはじめとする人間関係であり、社会・経済様態の違いである。

本書では、特に4人の女性、ングンドゥのブロンディーヌとテレーズ、アカのナリとコンガに焦点が当てられた。変わっていく生活と文化的な世界に向き合う時、彼女たちの語りは当地に暮らすングンドゥやアカの女性の強さや回復力を形のある記録となっている。

そして、ヒューレットは、各章ごとに、考察のために数個の問いを読者に投げかける。たとえば、「はじめに」では、ヒュー

レットの調査地について、情報提供者について、調査の方法や考察の仕方についてなどを含めた調査の方法や視点について叙述している。そこで、次のように問いかける。

1. 調査者自身の文化やジェンダー、年齢はどのように研究や質問における中心的なテーマを形作るのだろうか? 調査者は、人々からライフストーリーを引き出す際に、どのような倫理的問題に直面するのだろうか?
2. 人類学の現地調査は、性役割や権力、育児実践、夫婦関係のような重要な問題のいずれかについて調査者自身の個人的な見解を揺るがしうるのだろうか?
3. アカとングンドゥという二つの集団は同じ環境にありながら、なぜ異なる文化的な振る舞いや信念、価値観を持っているのだろうか?
4. 馴染みのない場所で人類学の調査を行う上で最も困難な側面はどのようなものなのか想像してみよう。

こうして本書は、これから人類学を学ぼうとする人々だけではなく、すでに研究している人にとっても有意義な視点を提供してくれる。また、女性のライフストーリーから見通す社会や文化・経済という点に注目すれば、ジェンダー研究や家族問題という方面からの考察もできる。

ナラティヴの持つ力を改めて知ることができ、同時に、そうしたデータの表記や分析の重要性を再認識させてくれた。語りは、力があって、面白いのだ。

本書の構成は以下のとおりで、最後に解説エッセイが2つあること、各章にコラムがあることで、調査地であるコンゴ盆地の様子をより具体的に興味深く知ることができる。

アフリカに興味のある方には是非ともお勧めしたい。

はじめに一掃路に立つ女性の生活

第1章 森と村の世界

コラム: リバーサイド・ストーリーズ

第2章 森と村の子どもたち

コラム: 観の目の子育て

第3章 良き人生の諸構成要素

コラム: 健康と栄養状態から見る「良き人生」

第4章 結婚式と母親期

コラム: 母になるとき

第5章 女性であることの帰結

コラム: 女としての呼び名

第6章 時代間の繋がりとは祖母たち

コラム: すれ違うふたり

第7章 結論—グローバル化と変化の力

コラム: 衣服への渴望

[解説]

高田明: コンゴ盆地に生きる女たちの物語—狩猟採集民をめぐる生活世界的人类学

竹ノ下祐二: 語り、理論、物語—森の女性たちの語りに見られる、人間の普遍的特性としての「共同育児」と「自然の教育」